<u>半濁点</u>とは、<u>平仮名・片仮名</u>につけて半濁音を示す「 」の記号です。「ぱ」「パ」のように文字の右肩につけます。

JIS X 0201 における半濁点

 $\underline{JIS \ X\ 0201}\ \underline{F}$  片仮名集合には、独立した<u>半濁点</u>に<u>符号位置</u>が与えられています ( <u>符号位置</u> 5/15。GL に呼び出したときは 16 進表記で 0x5F, GR では 0xDF)。一方、「パ」のように<u>片仮名</u>に<u>半濁点</u>をつけた文字には<u>符号位置</u>が与えられていません。したがって、半濁音を表すには「ハ」の直後に独立した「゛」を置くという方式が取られます。

JIS X 0208 における半濁点

 $\underline{JIS~X~0208}$  では、「ぱ」「パ」など、 $\underline{+濁点}$ つきの $\underline{+仮名}$ ・片仮名が収録されました。

独立した<u>半濁点も JIS X 0201</u> に引き続いて収録されています。

JIS X 0213 における半濁点

JIS X 0213 の漢字集合 1 面には、特殊な用法のある半濁点つきの文字が追加されています。

- ・鼻濁音の表現に用いられる、半濁点つきの「かきくけこ」・「カキクケコ」
- ・<u>アイヌ語の片仮名</u>表記において日本語にない発音を表すために、<u>片仮名</u>の「セ」「ツ」 「ト」ならびに小書きの「フ」にそれぞれ<u>半濁点</u>をつけたもの

Unicode における半濁点

<u>Unicode</u> には、独立した<u>半濁点</u>として、前進を伴う<u>半濁点</u>のほか、合成用の<u>半濁点</u>が用意されています。これは、直前の基底文字とあわせることで 1 文字を表現するものです。したがって、「パ」という文字の符号化として、<u>半濁点</u>つきの<u>片仮名</u>「パ」(U+30D1) だけでなく、「ハ」(U+30CF)+ 合成用<u>半濁点</u> (U+309A) とすることも可能です。

1 文字に複数の符号化方法があることは重複符号化になってしまうので、いずれかの方式に揃えることができます。これを <u>Unicode 正規化</u>といいます。

## 関連項目

- 潘占
- 平仮名
- ・片仮名